

試験場の研究部紹介

野菜花き試験場 花き部

長野県の花き生産は、夏季冷涼な立地環境を活かした夏秋季出荷を主体としていますが、気候変動の顕在化等により、計画的・安定的な生産が困難になっています。そこで、野菜花き試験場 花き部では、県内で栽培されている主要な切り花類（キク、カーネーション、トルコギキョウ、ダリア等）や鉢花（シクラメン）を中心に、開花調節技術を柱とする計画安定生産技術および生産性向上に向けた栽培技術の開発・確立に取り組んでいます。

主な技術開発の状況について、以下に紹介します。

【キク類の需要期出荷技術】

露地栽培を主体とした7～9月の需要期生産と施設栽培による夏秋季出荷が行われていますが、露地栽培では需要期に向けた開花調節が課題となっています。そこで、より精度の高い需要期出荷を図るため、開花期の年次変動が小さい品種や日長感応性が高い品種を選定し、開花調節による栽培技術の開発を行っています。また、主産地で栽培が定着しつつある洋マムについて、開花調節や品質調節技術の確立を進めています。



洋マムの開花調節試験

【カーネーションの生産性向上技術】

夏秋季出荷を主体にカーネーションの生産が行われていますが、特に夏季の2番花の切り花品質低下が課題となっています。そこで、切り花品質を向上させつつ株あたりの採花本数を維持・向上させる生産性向上技術の開発を目指して、仕立て法の改善技術やヒートポンプを活用した効果的なEOD変温管理技術の開発を進めています。

EODは「日没後（End of Day）」の略で、この時間帯に数時間の冷暖房処理を行うことで、従来のように夜間一定の温度管理を行わなくても品質の向上が図られ、電気代の節約にもつながります。



カーネーション EOD 変温管理試験

【トルコギキョウの開花調節技術】

9～11月出荷に向けた抑制作型が普及拡大していますが、気候変動等により開花期の変動、切り花品質の低下等が顕著になってきています。そこで、計画的かつ安定的な生産技術の開発を目指して、日平均気温管理による開花調節技術の開発や養液土耕栽培等について検討を進めています。

トルコギキョウに対する日没後4時間冷房の効果
左・中央：日没後4時間冷房区、右：無処理
(左：15℃、中央：18℃)



アルストロメリア有望品種の選定

【アルストロメリア新品種の特性把握】

現在生産に用いられている品種の多くは海外で育成された品種で、特に近年、品種改良により夏季に一定量の切り花生産ができるようになってきました。また、生産者の経営安定には品質および生産性の高い品種の導入が重要であるため、有望品種の選定を中心に試験を進めています。

【ダリアの生産性向上技術】

ほぼ周年生産されている品目ですが、特に需要期となる秋以降の生産性向上が課題となっています。このため、定植時期や仕立て方法等の検討を実施し、現在は露芯花の抑制技術について検討を行っています。



正常花



露芯花



【シクラメンの省力栽培技術】

育苗から出荷までの期間が長く、また栽培管理に多くの労力を要し、品質の安定化が求められている品目です。そこで、緩効性肥料や植物成長調節剤等を用いた省力栽培技術の開発を進めています。

慣行性肥料を利用したシクラメンの省力栽培技術

担当者	齋藤 龍司	電話番号	0263-52-1148
-----	-------	------	--------------